



Made IN Japan の仏

私のお寺では、11月3日(祝)に恒例の『地藏さま顔ふき祭り』が行われました。伝統的な法要ではなく、私が住職になり計画して年々進化したものです。私のお寺の堂内境内には多種の仏さまや神さまが祀られていますが、檀家さんご近所の方も含めてお地藏さまの参詣者数はNo.1★でしょう。大小 80 数体のお地藏さまに日頃の感謝の気持ちを込めて、お寺の井戸水でお地藏さんのお顔を優しく拭いてさしあげるといふ行事です。その拭いた布を体の病んだ箇所当てて病氣平癒の御利益を頂くというものがメインでしたが、徐々に変化し



て、現在では、私がお地藏さまのお面をつけて御町内をお練りして御祈禱し皆さんに御守りを授与することが中心になっています。衣装の帽子やヨドカケは妻の手作りです。

お地藏さまが誕生されたのは、安倍晴明や小野篁(おののたかむら・小野小町の祖父)が京の都で

活躍していた頃です。ある時、地獄の閻魔大王が仏の戒を授けたいから良い僧侶はいないかと小野篁に尋ねました。小野篁は、昼間は宮中のお役人で夜になると東山の六道珍皇寺の「あの世へ行く井戸」から地獄へ行き、朝まで閻魔大王の手伝いをしていたという変わった人です。小野篁は矢田寺(やたでら・現在の中京区寺町通三条上る)の



住職である満米(まんまい)上人を推薦しました。後に満

米上人は例の井戸からあの世へ出向き閻魔大王に戒を授けました。喜んだ閻魔大王は地獄の鉄扉を開け、お礼に満米上人を地獄に案内しました。満米上人がそこで目にしたのは、現世で悪行をはたらいた罪人たちが燃え立つ炎で煮えたぎる鉄釜に次々と落とされていく姿でした。ふと見上げると、若い僧侶が蓮の華でできている草履を履き、鉄釜の中にいる罪人たちを助けています。満米上人はその光景にいたく感動されたそうです。現世



に戻り、その感激をお像にされたのが矢田寺ご本尊です。高さ 2 メートルの炎の中に立つお地藏さまです。お地藏さま発祥の地とも言えるでしょう。正に唯一の

Made IN Japan の仏! などと私など思っています。

俊徳丸